

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 鬼怒 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 124人	社会 124人	数学 124人
	理科 125人	英語 125人	

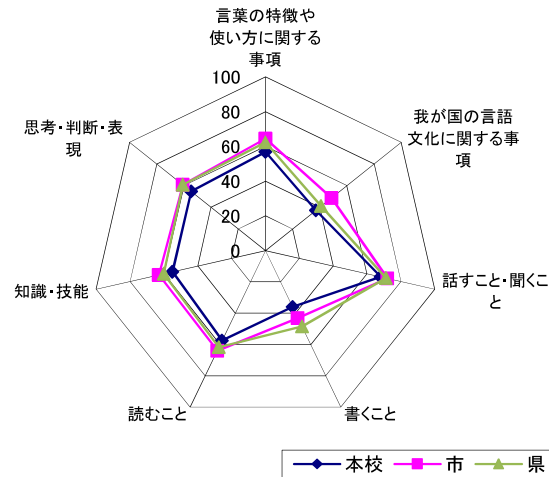
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	56.8	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	37.1	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	68.2	72.1	71.2
	書くこと	35.9	43.1	48.5
	読むこと	57.5	63.9	61.8
観点	知識・技能	54.8	62.9	60.1
	思考・判断・表現	54.7	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

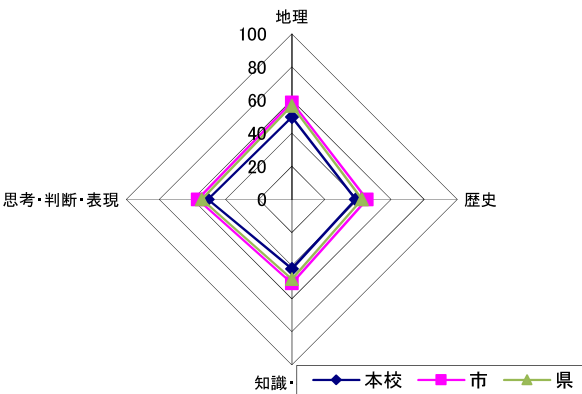
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市より7.7ポイント、県より5.5ポイント低い。 ○漢字を読むことについては、おおむね市の平均正答率と同程度の正答率であった。市の平均正答率を上回る問もある。 ●漢字を書くことについて、いずれの問も市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。	・漢字を書くことの小テストを実施する。何度も反復して書かせて覚えさせるような、単調な課題を行わず、該当の漢字を用いて例文を作らせたり、日常生活において使われている例を収集したりするなど、様々な角度から漢字を進んで使うことの良さを実感できる指導の充実を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市より11.6ポイント、県より4.0ポイント低い。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問において、市の平均正答率を11.6ポイント下回っている。	・古典において、教科書教材だけではなく多くの古典の文章に触れ、歴史的仮名遣いに習熟させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市より3.9ポイント、県より3.0ポイント低い。 ○話合いの司会者の工夫について捉える問の平均正答率が、市と比べて1.1ポイント高い。 ●話合いで決まったことをまとめる問の平均正答率が、市より8.3ポイント低い。	・今後も話合い活動を意図的に取り入れ、話合いの方向や役割を踏まえて話し合うための技能を身につけさせる。 ・話合いのあとに、話し合って分かったことや決まったことを自分の言葉でまとめる時間を作り、共有する。
書くこと	平均正答率は市より7.2ポイント、県より12.6ポイント低い。 ○資料から読み取れることを指定された長さでまとめて書くことは半数近くの生徒が正解している。 ●自分の考えを理由を挙げて書けるようにすることが課題である。 ●生徒の約4分の1が書くことの問において無回答である。	・資料や文章から読み取れたことを要約して書く活動を積極的に取り入れる。 ・自分の考えを、その根拠を明確にして読む人にわかりやすいように工夫して書けるようにするための学習活動を日常的に行う。 ・書くことへの抵抗感を軽減するため、ワークシートを利用して段階的に書く活動を増やす。
読むこと	平均正答率は市より6.4ポイント、県より4.3ポイント低い。 ○前後の文章の内容を把握して接続語を選ぶ問いや、場面の展開や人物の心情の変化について、描写を基に捉えることがよくできている。 ●当てはまる言葉を選ぶ問いは比較的正答率が高いが、条件に従って当てはまる言葉を書く問いは課題がある。	・文と文との関係を把握したり、描写から場面の展開や登場人物の心情を理解したりする活動は、これまで通り継続していく。 ・説明的文章において、キーワードに着目して筆者の考えをまとめ、文学的文章においては、描写から読み取ったことを自分の言葉に置き換えて表現する活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	49.7	58.7	56.6
	歴史	38.6	45.4	42.4
観点	知識・技能	41.9	50.7	48.2
	思考・判断・表現	50.7	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

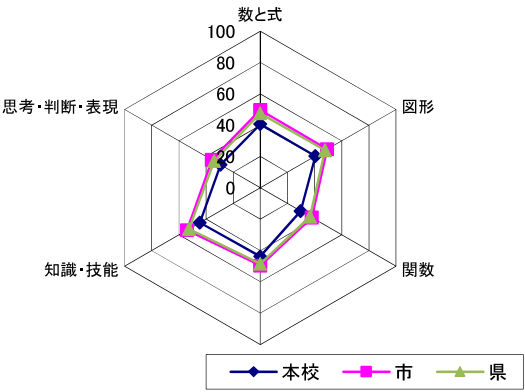
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	本校の平均正答率は、市の平均を9ポイント、県の平均を6.7ポイント下回った。 ○熱帯と冷帯(亜寒帯)の住居について述べた文章の空欄に当てはまる内容を答える問題の平均正答率は89.5ポイントであり、県の平均を6ポイント上回った。このことから、熱帯と冷帯(亜寒帯)の地域で見られる住居が高床である理由について、資料を基に考察することができているといえる。 ●複数の資料から読み取れる内容を基に、アンゴラの経済が抱える課題を考えて記述する問題の平均正答率は17.7ポイントで、県の平均を20.1ポイント下回った。このことから、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アンゴラの経済的な課題について表現する力に課題がある。また、この問題の本校の無回答率は53.2ポイントであった。	- 資料から分かることを読み取る力を育成するために、まずは土台となる基礎的な知識の定着が課題である。 - 知識をもとに資料と結びつける力を育成するために、今後も複数の資料を比較し、情報を読み取る活動を授業の中で意識的に取り入れていく。 - 記述式の問題で無回答の割合が高い問題があったため、単元の導入やまとめの活動において、考察した意見を表現する活動を取り入れていく。 - 動画教材や地図、資料など視覚教材を効果的に取り入れた授業は一定の成果を上げているので、今後も継続していきたい。
歴史	本校の平均正答率は、市の平均を6.8ポイント、県の平均を3.8ポイント下回った。 ○複数の資料から読み取れる内容を基に、偽籍が行われた理由を考えて記述する問題の平均正答率は39.5ポイントで、県の平均を6.7ポイント上回った。このことから、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現することができているといえる。 ●空欄に共通して当てはまる東アジアの伝統的な外交関係を示す語句を書く短答式の問題の平均正答率は18.6ポイントで、県の平均を4.7ポイント下回った。このことから、古代の日本(倭)の対外関係についての理解に課題がある。また、この問題の無回答率は41.9ポイントであった。	- 知識・技能の定着を図るために、小テストや単元末テスト等を継続的に授業に取り入れる。 - 考えたことを自分の言葉で書く力を育成することが課題である。授業の中で、本時の学習課題に対するまとめを書く活動や、分かったことを説明する活動をさらに取り入れていく。 - 日本の外交、対外関係についての問題の正答率が低かったため、歴史や文化が相互に深く関わっていることを考察できるように、歴史的事象について多面的・多角的に考察する視点を授業を通して育成していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	40.7	49.7	47.6
	図形	40.6	49.2	47.7
	関数	29.8	38.0	36.8
	データの活用	43.8	49.6	48.5
観点	知識・技能	44.6	54.0	52.5
	思考・判断・表現	29.4	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

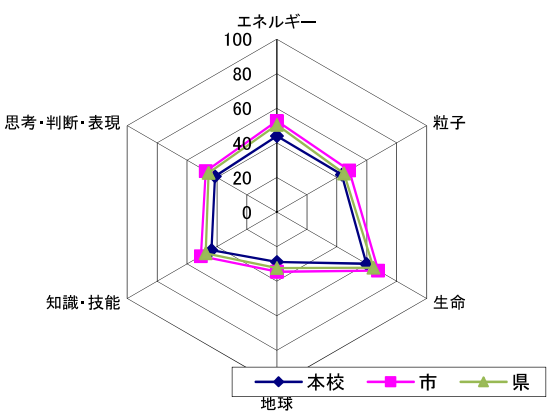
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市より9.7ポイント、県より7.6ポイント低い。 ○与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表すことができています。 ●四則の混じった計算、1次式の減法、1次方程式など基本的な計算について理解できていないことが課題である。	・継続的に反復学習を行い、符号や計算ミスに注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせていく。 ・与えられた情報に対して、数量の関係に注目しながら文字を使って立式させ、その式について説明できるよう言語活動を利用して問題を解けるようにさせる。
図形	平均正答率は、市より8.6ポイント、県より7.1ポイント低い。 ○回転移動・平行移動について理解できている。 ●立体について正しくイメージできていないことが課題である。	・図を描く機会を作るなどして図形を用いた活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深めさせる。 ・立体の形のイメージを模型やchrome bookを利用して、面積や体積の求め方を公式を確認し理解させ、繰り返し練習問題に取り組ませていく。
関数	平均正答率は、市より8.2ポイント、県より7ポイント低い。 ○比例の式からyの値を求めることができています。 ●変域の意味、グラフからの読み取りが理解できていないことが課題である。	・関数についての理解が不十分である。式や表、グラフの関係を確認させながら、2年の1次関数の分野でも指導していくようにする。 ・文章題では文章を正確に読み解けるように、必要な情報を選ぶように、内容と図表を関連付けさせながら、また生徒が自分たちで説明する機会を増やし、上達を図っていく。
データの活用	平均正答率は、市より5.8ポイント、県より4.7ポイント低い。 ○ヒストグラムから、情報を読み取ることができている。 ●度数分布表を利用して、相対度数を求められないことが課題である。	・重要語句やデータから読み取れる情報を適切に選択できる力を身に付けさせる。また、必要な情報を求められるよう計算する機会を授業の中で増やしていく。 ・データの活用における知識・理解、技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できる。数学的語彙力の育成を図り、学習したことが生きる場面を多く設定していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	44.0	52.7	50.5
	粒子	43.3	48.3	44.9
	生命	59.7	67.6	64.4
	地球	28.7	34.4	32.3
観点	知識・技能	43.7	50.7	47.6
	思考・判断・表現	41.4	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

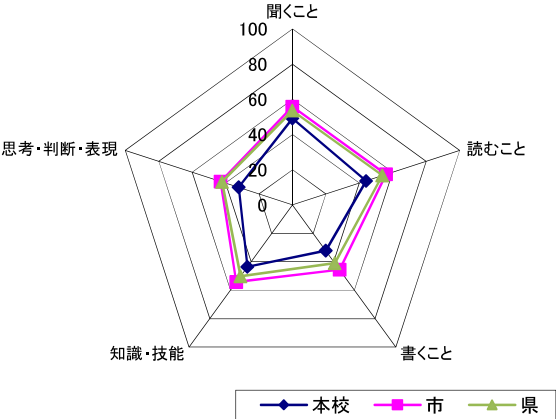
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市より8.7ポイント、県より6.5ポイント低い。 ○弦の太さと振動数との関係から、音の波形を選ぶ。では、市平均より0.9ポイント、県平均より1.9ポイント上回っている。 ●ばねの先におもりを付けた時の重力とつり合っている重力について、正しく表している図を選ぶ。問題では、市や県平均より15ポイント近く下回っている。	・物体にはたらく複数の力がつり合っている状態を、様々な具体例を通して繰り返し確認し、力の矢印で正確に表現する練習を継続する。 ・表、グラフ、計算などでchromebookを活用するなど、関心をもってデータの処理を学べるように授業の改善を図る。
粒子	平均正答率は、市より5.0ポイント、県より1.6ポイント低い。 ○メスシリンダーの使い方について正しいものを選ぶ問題では、市平均より16.3ポイント、県平均より22.7ポイント上回っている。 ●質量パーセント濃度を用いて、取り出した塩分の量を求める問題では、市や県平均より16ポイント以上下回っている。	・質量パーセント濃度が「溶液全体に対する溶質の割合」であることを、図やモデルを用いて視覚的に理解できるようにする。 ・公式だけでなく、溶質や溶媒などの各用語の意味を明確にし、それぞれがどの部分を指すのかを繰り返し確認し、理解を深める。
生命	平均正答率は、市より7.9ポイント、県より4.7ポイント低い。 ○ブロッコリーの花を分解したものから、被子植物の花のつくりを類推して選ぶ問題では、市平均より0.9ポイント、県平均より4.6ポイント上回っている。 ●両生類と爬虫類について、身に付けた知識を活用して、分類を修正する問題では、市や県平均より11ポイント以上下回っている。	・両生類や爬虫類といった各生物群が持つ具体的な特徴を具体的な生物をもとにして正確に理解させ、それぞれの特徴がその生物の生活様式とどのように関連しているのかを比べられるように、まとめる時間を設ける。 ・植物の映像や現物を取り入れる機会を増やし、植物の興味関心を高められるようにする。
地球	平均正答率は、市より8.1ポイント、県より5.0ポイント低い。 ○初期微動継続時間の名称を答える問題では、市や県平均より10ポイント以上上回っている。 ●花崗岩(かこうがん)のでき方について、時間的・空間的な視点から説明する問題では、市平均より13.6ポイント、県平均より9.6ポイント下回っている。	・冷却速度と結晶の大きさの関係を明確にするために、岩石標本を使ってスケッチや特徴を表にまとめる活動を通して理解できる時間を設ける。 ・実際に様々な種類の火成岩や主要な造岩鉱物の標本を生徒に観察させる機会を十分に設け、それぞれの鉱物が持つ色、光沢、形といった特徴を具体的に識別させる練習を行う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	49.1	55.8	53.5
	読むこと	44.1	56.0	53.8
	書くこと	32.3	45.6	40.9
観点	知識・技能	43.5	54.3	50.2
	思考・判断・表現	32.1	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市より6.7ポイント、県より4.4ポイント低い。 ○絵を見て、内容を表している英文を答える問題への正答率も良好であり、英文の概要や要点を聞き取ることができている。 ●対話文や説明文など、やや長い英語について適切な答えを導き出す問題の正答率が低い。	・教師の発話で重要語句を繰り返し使うようにして、インプットの回数を増やしていき、生徒の語彙力の向上を図る。 ・言語活動の時間を増やして生徒の英語の使用時間を長くしていくなど工夫していく。また、ALTを活用し対話場面を増やしていく。 ・ALTとのTTの授業を実施しながら、教員同士の対話例を示す機会を多くもち、聞くことへの関心や慣れを育てていく。 ・パフォーマンステスト等、個別にALTと英語で会話をす
読むこと	平均正答率は市より11.9ポイント、県より9.7ポイント低い。 ○対話文の中での適切な代名詞を状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができている。 ●日常的話題について必要な情報や概要について正確に読み取ることができていない。	・読む活動では、何に注意して読むかを伝えて、生徒が必要な情報を素早く読み取ったり、長文読解のポイントを意識した指導を工夫していく。 ・文字だけでなく、グラフや表、ポスター等、様々な形式の英文から情報を読み取ることができる力を養い、英文を読むことに慣れさせつつ、読むことへの興味関心を高める。
書くこと	平均正答率は市より13.3ポイント、県より8.6ポイント低い。 ○be動詞の肯定文や自分について簡単な英文を書くことができています。 ●無回答率が高い。特に、自分のことや考えを踏まえてまとまりのある文章を書く問題に対しての無回答率が市や県よりも15ポイント以上も高い。	・まとまりのある文や自分の考えなどを相手に伝えるための活動を取り入れて、表現力や語彙力を高めていけるように指導する。 ・質問に答えるだけでなく、相手に尋ねる英作文を書く活動を取り入れる。 ・基本文法から、自分自身のことに置き換えて英文を書く活動を取り入れ、自分の事柄を伝える英文を自信をもって書けるような指導を行う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でテストの間違ったところのやり直しや宿題の他に自主学習に取り組んでいる。」への肯定的な回答率は県の平均と比べて2ポイント程度高く、復習の習慣が身についていると思われる。計画的な学習をできるように支援していく。

○「学習していて疑問や不思議に思ったことを分かるまで調べたい。」という肯定的な回答率は約10ポイント、県の平均よりも高い。今後も探求的な学習を取り入れ、生徒の力を伸ばしていけるようにしたい。

○「毎日の生活が充実している。」と肯定的な回答率は8ポイント高い。前向きな気持ちを学校生活にも生かして生徒の力を伸ばしていけるようにしたい。

○「クラスは発言しやすい」「先生は学習のことについてほめている」「授業で分からないところは先生に聞く」「家の人からほめられる」「人と話すのは楽しい」という肯定的な回答が県の平均より約3～6ポイント高く、周囲の人との良好な人間関係が図れている。今後も授業の中で協働的な学習活動を一層充実させていきたい。

○主要5教科は県の平均よりも低い、「音楽・美術・体育・技術・家庭科の実技系の教科が好きである」肯定的な回答の割合が県の平均と比べて平均約20ポイント高い。学習という営みが自分の将来の可能性を広げ、自己実現につながるものであることを実感させる。

●家で宿題をやる習慣は身に付いてきているが、日々の学習時間が県の平均よりも低い。に取り組んでいない割合が県の平均と比べて10ポイント以上高く、課題が見られる。自ら進んで学習に取り組む姿勢や分からないことがわかったときに感じられる喜びを授業の中で感じさせていき、各々の学習活動にも前向きに取り組めるように支援する。

●「自分にはよいところがある」の肯定的な回答率が約10ポイント低い。学校生活を通して、自己肯定感を高められる場面を設けられるよう支援していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
語彙力と読解力の向上	毎週金曜日の朝の活動の時間に、読解力を高めるための補助教材を全校同時に実施する。	「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて22.6%低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
進んで語彙を増やしたり、言葉に関する理解を深めたりする意欲や態度に課題が見られる。	語彙力や読解力を向上させる取組を、国語科だけでなく、各教科で行う。	各教員が校内研修の一環で行う授業公開において、各教科の特質に応じて、読解力や語彙力を向上させる工夫を行う。